十島村教育委員会だより 平成28年2月号

南北160㎞ 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会 〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号 TEL 099-227-9771

2月…閉校式と開校式

十島村教育長 有村孝一

1月初めに、1本の電話があった。以前勤務した学 校からだった。閉校式への出席依頼と惜別の会におけ る歴代校長のあいさつ依頼であった。私は、この学校 に平成17年から3年間勤務した。確か、全校児童数 14 人だったと記憶している。結果として、この学校 の歴史の中で、最も児童数が少ない時ということにな ってしまった。

その頃は、もうしばらくすると、未就学児が多くな るので、20 人を超す日がくるであろうというのを期 待していた。予想通りに、今では30人近い児童数と なり、私も内心喜んでいた。新聞等で、この学校の記 事等が出るとすぐに切り取ったりして、時には、懐か しさのあまりに、学校へ電話したこともあった。新聞 で見る子どもたちの顔は、とても誇らしげに見えた。

しかし、一方で、新聞では学校再編のことも伝えて おり、近隣の市町などでも、大がかりな再編計画が挙 がっていた。少子化の波が押し寄せる近年、子どもた ちの学ぶ環境を考えた時に、やむを得ない事なのかも しれない。

私は、学校から見る春のレンゲやつつじ、サクラの 景色、ホタル飛び交う夏の夜の風景、黄金色に輝く秋 の田んぼの様子、冬の人々を魅了してやまない雪山の 光景が好きだった。学校は、この3月に136年歴史 に幕を降ろすが、人々の心の中にいつまでも、その思 い出は残ることだろうと思う。私も勤務した学校がな くなるというのは、初めてのことであり、さみしさが 増してくる気がする。

ところで、私たち十島村では、この4月から諏訪之 瀬島分校と小宝島分校が廃止され、新たに、本校が設 置されることとなった。今、その開校式に向けて準備 中である。両校とも、85年の長きにわたって分校と して存続してきた。それが、やっと本校になるという ことで、島の皆さんの喜びは、いかばかりだろうかと 思う。

本校には,新たに校長が配置され,これまでと違っ て、毎日子どもたちを見守ることができる。教員にと っては,精神的な支柱としての存在となることは間違 いない。学校の雰囲気も変わり、はたまた、島全体の 様子さえ変わるかもしれない。それだけ、大きな変化 がもうすぐ起ころうとしている。

この4月、子どもたちにとって、よりよい学習の条 件を求めて新たなスタートを切る2つの分校。閉校式

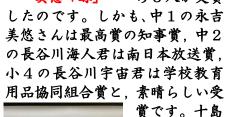
と開校式という両極端のことだが、いずれも子どもた ちの将来を見据えてのことである。結果はすぐには出 ないかもしれないが、どちらの場合も、この選択で良 かったと、ともに喜ぶ日が来ることを願うばかりであ る。ちょうど、今、惜別の会におけるあいさつ文が出 来上がった。心を込めて、感謝の気持ちで思いを伝え ていきたい。

口之島小・中学校に学校賞!



2月 19 日の南日本新聞に大き く出た記事です。「第31回県児 童生徒ゆめ立体・彫刻展」で,1207 点の中から、口之島小・中学校の 3 人の児童生徒が特別賞に選ばれ たのです。学校賞は、入賞者が多 かった7校で、その1校なのです。 小中合わせて 11 人という学校か

美悠「妹」 ら3人が受賞





村全体のビッ グニュースと 強人「決めろ! して大いに喜 弾丸スマッシュ」 びたいと思います。今後の、十島 村の子どもたちの更なる創作への チャレンジを期待しています。

宇宙「ぼくのきりん」 ここに、3人の作品を紹介いた します。躍動感あふれる人や動物の姿に、作者の生命 に対する愛情が伝わってくるようです。

~~~ シリーズ**――島で暮らす**



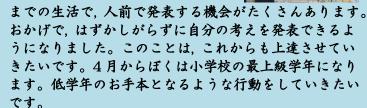
「小宝島の大自然に触れて」 宝島小学校小宝島分校5年 上三垣和芳

「本船、間もなく小宝島に入港いたします。」という 放送がフェリーの中に流れました。僕の胸は、ドキリド キリとして、はりさけそうになりました。島に降り立つ と、周りは知らない人だらけで、緊張が更に高まったこ とを覚えています。

島での生活は、鹿児島市にいるときと全く違いました。 お店がないことです。僕はどうやって食べ物を買うのだ ろうかと思いました。島では生協やインターネットを利 用しています。ここでは、注文してから時間がかかりま す。また、フェリーが欠航することもあります。今まで のぼくは、近くのお店でほしいものをすぐに手に入れる ことができました。しかし今では、大好きなお菓子を計 画的に食べるようになりました。

学校生活で一番びっくりしたことは、水泳学習です。 前の学校での水泳は、プールで泳いでいましたが、島で は海で泳ぎます。まず心配したことは、「深いのかな。」 「海の中には何がいるのかな。」ということです。実際 海に入った時は、こわくて泳げませんでした。しかし、昨 年の夏は、海のきれいさや泳いでい

る魚を楽しみながら泳ぐことがで きるようになりました。今年の夏は、 もっと泳ぎが上手くなって. 深いと ころまで泳いでいきたいです。これ



シリーズ---子どもたちの願い



「3 学期の抱負」

悪石島中学校1年 宮西聖典 悪石島小学校5年 西えほん

9月に悪石島に来て、4か月が過ぎました。みんな と楽しく学ぶことができました。3 学期は、まず運動 面で頑張りたいことがあります。私は、長距離が苦手 です。2 学期にあった「トカラ列島島めぐりマラソン 大会|や「校内持久走大会」でも、みんなに遅れてし まいました。だから、3 学期は休日なども利用して、 走る練習に取り組み、体力を向上させたいと思います。 もちろん、学習面でもがんばらなければなりません。 私は、あまり勉強が好きではありません。だから当た り前ですが、テストなどでなかなか良い点数を取るこ とができませんでした。3 学期は、自分に厳しく、も っとテスト勉強の時間を増やすなど、テストのことを 意識して,学習にも取り組みたいです。(宮西君)

三学期。短いけれど、今の学年のまとめと次の学年 への準備をする学期です。また、4月になると、いよ いよ小学校の最高学年、つまり、リーダーとして行動 しなければなりません。新一年生が入ってくるので勉 強だけでなく、毎日の過ごし方でもお手本になりたい と思っています。そのために、私が立てた目標は、周 りに言われる前に動くということと、やるべき事を先 にやるということです。食事前の準備や洗たく物たた み といった家の仕事、宿題や家の勉強を後回しにしな いで、先に終わらせてから自分のやりたいことをする ようにしたいです。学校では、自分で先を考えて動ける ようにしたいです。新一年生だけでなく、新しく来る

かもしれない友だちにとっても頼りになる6年生にな りたいと思います。また、朝の委員会活動などの自分 の役割を、 今まで以上にしっかり取り組んだり、 新し く学習する歴史をがんばったりしたいです。

また、もうすぐ兄が島立ちします。兄と過ごす残り わずかな時間を大切にして、高校進学する兄を応援し たいです。(西さん)

島村の小・中学校からのメッセージ

中之島小・中学校 教頭 宮村雄一郎

中之島小・中学校の子どもたちは17名、サッカー をしている姿をよく見かける。暑い日も寒い日も一年 中, 小学校低学年から中学生まで入り混じって元気よ く遊んでいる。そこで長年使われているサッカーゴー ルは手作りだ。あちらこちら傷んではいるが、代々補 修され、今でも子どもたちに大切に使われ続けている。

話しは少し変わるが、昨年10月、村の子育て支援施 設『中之島ほしのこ園』が開園した。中之島には1歳 から6歳までの未就学児が10名おり、今年1月から は週5日、中之島小・中学校の敷地内にある園に通っ ている。この「ほしのこ園」の保護者から、前述した サッカーゴールを、自分が子どもの頃使っていたとい う話しを聞いた。ということは少なくとも 20 年以上

前に作られたということに なる。 このゴールは、成長 し巣立っていく子どもたち を見続けて来たことになる。 子どもたちのためにこのゴ ールを作った人たちの思い

も、今に続いている気がしてならない。

私にとって離島勤務は2度目だ。最初の勤務の時. 離島出身の先輩教師から言われた言葉がある。「島の 子どもたちのために何ができるか、何を残せるかが大 事だよ。| 今. 離島勤務2年目を終えようとしている。 私は、中之島の子どもたちのために何を残し得るのだ ろうか。残念ながら今は何も残せていない。長年使わ れ続けるサッカーゴールのように、子どもたちの中に、 学校に、そして地域に何かを残していけたらと思う。

教師仲間である「あなた」への 私からのメッセージ

教師というのは何よりも経験を積み重ねていくこ とが大切です。一年一年自分を取り巻く環境は変わり ます。経験を積み上げ、自分の引き出しを多く持つ教 師こそが、どんな場面に遭遇しても、その答えを引き 出すことができます。この十島村の小中併設・極小規 模校での経験やこの地での生活は、我々教師としての 引き出しを広げてくれます。